

マスタピース 水和剤

農林水産省登録第 23259 号

日本曹達株式会社農業化学品事業部開発部



1. はじめに

マスタピース水和剤は、静岡県にある日本曹達(株)の研究圃場で栽培されていたレタスから発見された細菌 *Pseudomonas rhodesiae* HAI-0804 を有効成分とする新規の細菌病用生物殺菌剤です。

平成21年度よりNR-24の試験番号で一般社団法人日本植物防疫協会の薬効・薬害試験を開始し、ジャガイモ軟腐病とハクサイ軟腐病、カンキツかいよう病、モモ及びネクタリン軟腐病に対して実用的な効果を得、平成25年4月24日に新規農薬登録が認可され、平成26年2月より販売を開始しました。

ここに本剤の作用特性、使用方法等についてまとめましたので、実際の防除やご指導の際の参考としていただければ幸いです。

2. 有効成分と物理学的性状

有効成分 シュードモナス ロデシア
HAI-0804株 5×10^9 CFU / g
性 状 類白色水和性粉末
剤 型 水和剤

3. 安全性 (概要：詳細は本誌P.7を参照ください)

4. 特長

本剤は、*Pseudomonas rhodesiae* HAI-0804 を活性成分とし、ばれいしょの軟腐病をはじめ、野菜類の軟腐病、かんきつのかいよう病、もも、ネクタリンのせん孔細菌病、マンゴーの枝枯細菌病等の各種植物病原細菌によって引き起こされる病害に対して効果的に防除することができます。

マスタピースは従来の生物農薬と比べて、作物に対する汚れがとても少ない剤です。更に使用回数に制限がなく、有機 J A S 規格の農薬の使用回数にカウントされません。

5. 使用方法 (上手な使い方概要：詳細は本誌P.7～10を参照ください)

ばれいしょの軟腐病、野菜類の軟腐病に対しては本剤を1,000～2,000倍に希釈し、10aあたり100～300Lを散布してください。

予防散布により効果を発揮しますので、発病前から発病初期に7～10日間隔で散布してください。また、化学農薬との体系防除で計画的な散布を行うことで、病害の発生を抑えることができます。

有効成分は生菌ですので、散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。また、開封後はすべて使い切ってください。

おわりに

マスタピース水和剤は従来にない優れた特長を持った防除剤です。本剤の特長をご理解頂き、体系防除剤の1剤として有効に使用して頂ければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、本剤の開発にご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。本剤の使用に關しまして、引き続きご指導を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

表1. 適用病害名の範囲及び使用方法

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用病害名	希 釈 倍 数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	使 用 回 数 *		使用 方法
					本 剤	シュドモナス ロデシア	
ばれいしょ 野 菜 類	軟 腐 病	1,000～2,000	100～ 300	発 病 前 ～ 発病初期	—	—	散 布
かんきつ う め	かいよう病	1,000～4,000	200～ 700				
も も ネクタリン	せん孔細菌病	1,000～2,000					
マンゴー	枝枯細菌病	2,000					

2014年9月10日現在